

プロジェクトマネジメント知識体系 (PMBOK® ガイド) 第5版 正誤表

2014年2月17日 PMI日本支部事務局

区分	章節など	行	誤	正	補足説明
目次	1.4		・ ・ および組織的プログラムマネジメント 間における・ ・	・ ・ および 組織 のプログラムマネジメント 間における・ ・	表記の統一
目次	12.3		(小見出し の位置に並んでいる)	(左詰め)	誤植
表と図の一覧		図4-1.	プロジェクト 統合マネジメント - 概観	プロジェクト 統合マネジメント の 概観	表記の統一
		図4-3.	プロジェクト 憲章作成- データフロー図	プロジェクト 憲章作成のデータフロー図	表記の統一
		図4-7.	プロジェクト 作業の指揮・ マネジメント - データフロー図	プロジェクト 作業の指揮・ マネジメント の データフロー図	表記の統一
		図9-1.	プロジェクト 人的資源マネジメント - 概観	プロジェクト 人的資源マネジメント の 概観	表記の統一
		図9-12.	プロジェクト・ チームのマネジメント のデータフロー図	プロジェクト・ チーム・ マネジメント の データフロー図	表記の統一
		図12-1.	プロジェクト 調達マネジメント 概観	プロジェクト 調達マネジメント の 概観	表記の統一
		表2-1.	組織構造がプロジェクトに及ぼす影響	組織構造がプロジェクトに及ぼす影響 (太字にする)	表記の統一(編集)
2	1.1	下から9行目	・ ・ ・ この規定を受入れることは必須であり、・ ・ ・	・ ・ ・ この規定を 受け入れる ことは必須であり、・ ・ ・	表記
2	1.1	下から9行目	・ ・ ・ PMI の試験では、その受け入れが必要・ ・	・ ・ ・ PMI の試験では、その 受け入れ が必要・ ・	表記
7	1.4	見出し	・ ・ および組織的プログラムマネジメント 間における・ ・	・ ・ および 組織 のプログラムマネジメント 間における・ ・	表記の統一
12	1.5.1	2	・ ・ 変更が生じる場合など 継続する・ ・ ・	・ ・ 変更が生じる場合 など 。 継続する・ ・ ・	。で区切るべき箇所
18		2	・ チーム形成活動	・ チーム形成	表記の統一
18		3	・ 動機付け	・ 動機づけ	表記の統一
18		7	・ 政治的風土と文化に対する認識	・ 政治的活動と文化への認識	表記の統一
36		下から9行目	・ ・ 成果物またはサービスの実績と受け入れを・ ・ ・	・ ・ 成果物またはサービスの実績と 受け入れ を・ ・ ・	表記
39	図2-8中		受け入れ済み成果物	受け入れ 済み成果物	表記
45	2.4.2.3	4行目	・ ・ ・ ライフサイクルでは、反復的かつ漸次的に・ ・	・ ・ ・ ライフサイクルでは、反復的かつ 漸進的 に・ ・	用語の統一
46	2.4.2.4	2行目	・ ・ 適応型手法も反復的かつ漸次的であるが・ ・	・ ・ 適応型手法も反復的かつ 漸進的 であるが・ ・	用語の統一
58		6行目	・ ・ 顧客やスポンサーによる受け入れ	・ ・ 顧客やスポンサーによる 受け入れ	表記
74	4.2.1.1	3行目	プロジェクト・ チームはプロジェクト 憲章を起点として初期の計画策定を開始する。	プロジェクト・ チームは 立上げプロセス群において初期の開始点としてプロジェクト 憲章を用いる 。	「立上げプロセス群」の訳抜け
84	4.3.2.2	3行目	情報収集・ 配信システム	情報収集・ 配布 システム	用語
92	4.4.2.4	2行目	プロジェクト・ チームメンバー	プロジェクト・ チーム・ メンバー	表記の統一(中黒)
107	図5-3	左下ボックス	プロジェクト・ マネジメント 計画書	プロジェクト マネジメント 計画書	表記の統一(中黒)
107		見出し	スコープ・ マネジメント 計画データフロー図	スコープ・ マネジメント 計画 の データフロー図	表記の統一
117	5.2.3.1	4行目	・ ・ 主要なステークホルダーに受け入れられる・ ・	・ ・ 主要なステークホルダーに 受け入れられる ・ ・	表記
122	5.3.2.2	下から3行目	・ ・ 成果物に変換するために一般的に受け入れられている・ ・	・ ・ 成果物に変換するために 一般に受け入れ られている・ ・	表記
123	5.3.3.1	・ 受け入れ基準	成果物を受入れる前に満たしておく・ ・ ・	成果物を 受け入れる 前に満たしておく・ ・ ・	表記
132		4行目	アカウントに割当て、WBS・ ・ ・	アカウントに 割り当て 、WBS・ ・ ・	表記

区分	章節など	行	誤	正	補足説明
139	5. 6. 1. 5	3	・ 現行の公式および非公式のスコープ、コントロールに関連した方針・・・	・ 現行の公式および非公式の スコープ・コントロール に関連した方針・・・	「スコープ・コントロール」という用語
162	6. 4. 1. 3	2行目	見積る際の基本的なインプット・・・	見積もる 際の基本的なインプット・・・	表記
163	6. 4. 1. 4	3行目	・・・資源の利用を見積る際に使われる	・・・資源の利用を 見積もる 際に使われる	表記
167	6. 5. 1. 4	見出し	アクティビティ 資源要求	アクティビティ 資源要求事項	用語
171		1	・・・により、予測される所要期間tEは・・・	・・・により、 所要期間期待値 tEは・・・	用語
171		4	・ ベータ分布(従来のPERT分析を使用)	・ ベータ分布(従来の PERT分析で 使用)	誤植
199		下から11行目	・・・変動は許容されるが、越えたらなんらかの処置が・・・	・・・変動は許容されるが、 越えたら なんらかの処置が・・・	表記 限界値を過ぎるときには「超える」
219		1		(1字下げ)	レイアウトの統一(編集)
219		1～3		(左につめる)	レイアウトの統一(編集)
221		7行目	これらの取り組みは、いかなる・・・	これらの 取組み は、いかなる・・・	表記
222	7. 4. 2. 4	5行目	完成時差異(VAC = BAC - EAC)について(原因、影響、是正処置)説明する。	完成時差異(VAC = BAC - EAC)について その原因、影響、是正処置 を説明する。	訳文の日本語表現
245		下から12行目	関連図	関連図	定義語
253	8. 3. 3. 6	見出し	プロジェクト マネジメント 計画書の更新	プロジェクト マネジメント 計画書更新版	表記の統一
253	8. 3. 3. 7	見出し	プロジェクト マネジメント 計画書更新版	プロジェクト 文書更新版	定義語の間違い
253		下から3行目	QC七つ道具または品質マネジメント・コントロール・ツールを	QC七つ道具、または、品質マネジメントとコントロールのツールを	誤植
258	図9-3」	見出し	人的資源マネジメント 計画-データフロー図	人的資源マネジメント 計画 の データフロー図	表記の統一
281	9. 4. 1. 1	2	人的資源計画書	人的資源 マネジメント 計画書	定義語の間違い
282	9. 4. 1. 5	2行目	プロジェクト・チームのマネジメントに役立つ・・・	プロジェクト・チーム・マネジメント に役立つ・・・	定義語 プロセス名
282	9. 4. 1. 6	1行目	プロジェクト・チームのマネジメントに影響を・・・	プロジェクト・チーム・マネジメント に影響を・・・	定義語 プロセス名
285	9. 4. 3. 4	1	プロジェクト・チームのマネジメントの結果として・・・	プロジェクト・チーム・マネジメント の結果として・・・	定義語 プロセス名
285	9. 4. 3. 5	1	プロジェクト・チームのマネジメントの結果として・・・	プロジェクト・チーム・マネジメント の結果として・・・	定義語 プロセス名
288	図10- 1	10.1 コミュニケーション・マネジメント 計画	.3 アウトプット .2 プロジェクト 計画書更新版	.3 アウトプット .2 プロジェクト 文書更新版	定義語の間違い
288	図10- 1	10.2 コミュニケーション・マネジメント	.3 アウトプット .3 プロジェクト 計画書更新版	.3 アウトプット .3 プロジェクト 文書更新版	定義語の間違い
288	図10- 1	10.3 コミュニケーション・コントロール	.3 アウトプット .4 プロジェクト 計画書更新版	.3 アウトプット .4 プロジェクト 文書更新版	定義語の間違い
288-308	偶数頁	ヘッダー	プロジェクト 人的資源マネジメント	プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	ヘッダー誤植
292	10. 1. 2. 1	最後の行	およびコミュニケーションの要求事項	および コミュニケーション 要求事項	表記

区分	章節など	行	誤	正	補足説明
292	10. 1. 2. 2	5	コミュニケーション技術に影響を及ぼす要因としては・	コミュニケーション技術の 選択 に影響を及ぼす要因としては・	訳の漏れ
294	10. 1. 2. 3	上から6行目	これらのコミ K ュニケーション・モデルの	これらのコミュニケーション・モデルの	誤植
299	10. 2. 1	見出し	コミュニケーション・マネジメントインプット	コミュニケーション・マネジメント： インプット	誤植
299	10. 2. 1. 3	箇条書きの2項目	コミュニケーション・マネジメント・プロセスに影響を及ぼしうる特定の組織体の環境要因には以下の事項が含まれるが、これらに限定されるものではない。	国家または業界の標準と規制	訳漏れ(間違った文による上書き)
311		下から9行目	・ ・ ・ 一貫性をもって取組むべきで・ ・ ・	・ ・ ・ 一貫性をもって 取り 組むべきで・ ・ ・	表記
311		下から3行目	・ ・ ・ プロジェクトを上げた瞬間から存在する・ ・ ・	・ ・ ・ プロジェクトを 立ち上げた 瞬間から存在する・ ・ ・	表記
351	11. 6. 2. 1	2行目	・ べきである。どの程度の繰り返し回数と・	・ べきである。どの程度の 繰返し 回数と・	表記
356	図12-1	12. 2 調達実行	. 1 インプット 1 プロジェクトマネジメント計画書	. 1 インプット 1 調達マネジメント 計画書	定義語の間違い
369		14行目	・ 資金力 納入者は、必要な資金を有して・ ・ ・	・ 資金力 納入者は、必要な資金を有して・ ・ ・	誤植
373	12. 2. 1. 1	1行目	項目4. 23. 1に記述	項目4. 2. 3. 1に記述	誤植
373	12. 2. 1. 3	1行目	項目12. 13. 4に記述	項目12. 1. 3. 4に記述	誤植
376	12. 2. 2. 6	3行目	・ ・ ・ 予算化を裏付けするために期待される に コストを・	・ ・ ・ 予算化を裏付けするために期待されるコストを・	誤植
380		下から3行目	調 調 達管理者	調達管理者	誤植
386		8行目	・ 納入者パフォーマンス評価文書購入者は・ ・ ・	・ 納入者パフォーマンス 評価文書 購入者は・ ・ ・	誤植「評価文書」までが見出しで太字。「購入者は…」の前に空白が必要
388		下から4行目	調達監査の目的は、当該プロジェクトや母体組織の他のプロジェクトにおいて、調達契約の作成や管理に反映すべき成功と失敗を特定することである。	すべての調達関係において、係争中のすべての課題、クレーム、紛争等を交渉によって公正に最終的な和解に導くことがもっとも優先すべき目標である。	「12. 4. 2. 1 調達監査」の説明文が、「12. 4. 2. 2 調達交渉」の欄に重複して記述されている
393	図13-3	見出し	ステークホルダー特定データ・フロー図	ステークホルダー特定 の データ・フロー図	表記の統一
396		下から7行目	・ ・ ・ 権限レベル(権力)と利害レベル(関心度)に基づいて・ ・ ・	・ ・ ・ 権限レベル(権力)と 積極的参加の度合い(関与度) に基づいて・ ・ ・	誤訳、「関心度」の説明でなく関与度の説明
402	13. 2. 2. 3	下から6行目	ステークホルダー関与評価マトリックス	ステークホルダー関与 度 評価マトリックス	定義語
406		1行目	ステークホルダーの関与をマネジメントすることは・	ステークホルダー・エンゲージメント・マネジメント は・	定義語 プロセス名
410	図13-11	見出し	・ ・ ・ コントロール: データ・フロー図	・ ・ ・ コントロールのデータ・フロー図	表記の統一
423	表A 1 -1	5. 5 の名称	スコープの妥当性確認	スコープ妥当性確認	定義語 プロセス名

区分	章節など	行	誤	正	補足説明
465		5行目	・その他の一貫性の規則 ○ 英語表記で、とは、それぞれと”に置き換える。”	・その他の一貫性の規則 “project document update” と“organizational process asset updates”は、それぞれ“project documents updates”と“organizational process assets updates.”に置き換える。(訳注:日本語版では何れも「プロジェクト文書更新版」と「組織のプロセス資産更新版」で変更なし)	(英語版では単数表記は複数表記に変更するよう規則を定めているが、日本語表記では単数・複数の区別がないので規則は当てはまらない)
467	図X1-1		プロジェクト 計画書更新版	プロジェクト マネジメント 計画書更新版	定義語
525	VAC		完了時差異	完成時差異	定義語
559	用語集	適応型ライフサイクル	漸次的	漸進的	用語の統一
572	索引	か	完了時差異	完成時差異	定義語
569-584	索引		日本語版は英日併記しているため、追加された日本語文の量に相当するページ数が増加し、索引ページ(英語版と同じページが採番されている)と重複が発生。		用語集は直接50音順で検索してください。
579- 584	用語集	ら	「ら」行全体が「わ」行より先になっている		「ら」行、「わ」行の用語参照時にご注意ください。
523-584	用語集		英語版は用語がABC順で表記されているが、日本語版は50音順で表記されているため用語が掲載されたページ数が異なる。索引は英語版でのページ数を示している。		用語集は直接50音順で検索してください。

索引 正誤表

ページ	頭文字	誤	正	
570	W	WBS作成プロセス	WBS作成	
570	あ	アクティビティ資源見積りプロセス	アクティビティ資源見積り	
570	あ	アクティビティ順序設定プロセス	アクティビティ順序設定	同じ索引項目が重複
571	あ	アクティビティ所要期間見積りプロセス	アクティビティ所要期間	
571	あ	アクティビティ定義プロセス	アクティビティ定義	
571	い	インセンティブ・フィー		改行漏れ、同じ索引項目が重複
572	か	完了時差異	完成時差異	
572	き	許容誤度	許容度	
573	け、か	監査と検査	検査と監査	
573	こ	合意書	合意	
573	こ	広告	公告	
573	こ、か	心の知能指数	感情的知能	
573	こ	コストの集約	コスト集約	同じ索引項目が重複
573	こ	コスト・コントロール・プロセス	コスト・コントロール	
574	こ	コスト・マネジメント計画プロセス	コスト・マネジメント	
574	こ	コスト見積りプロセス	コスト見積り	
574	こ	コミュニケーション・コントロール・プロセス	コミュニケーション・コントロール	
574	こ	コミュニケーション・マネジメント計画プロセス	コミュニケーション・マネジメント計画	
574	こ	コミュニケーション・マネジメント・プロセス	コミュニケーション・マネジメント	
575	さ	サブネットワーク		50音順ではサブプロジェクトの後
575	さ	残作業コスト見積り	残作業見積り	
576	し	人的資源マネジメント計画プロセス	人的資源マネジメント計画	
576	す	スケジュール・コントロール・プロセス	スケジュール・コントロール	
576	す	スケジュール作成プロセス	スケジュール作成	
577	す	スコープ・コントロール・プロセス	スコープ・コントロール	
577	す	スコープ妥当性確認プロセス	スコープ妥当性確認	
577	す	スコープ・マネジメント計画プロセス	スコープ・マネジメント計画	
577	す	ステークホルダー・エンゲージメント・コントロール・プロセス	ステークホルダー・エンゲージメント・コントロール	
577	す	ステークホルダー・エンゲージメント・マネジメント・プロセス	ステークホルダー・エンゲージメント・マネジメント	
577	す	ステークホルダー・マネジメント計画プロセス	ステークホルダー・マネジメント計画	
577	す	ステークホルダー特定プロセス	ステークホルダー特定	
578	せ	成果物 の下位の索引項目 アウトプットから定義まで 重複		同じ索引項目が重複、字下げが正しくない
578	せ	是正処置の変更要求	是正処置	
579	た	妥当性確認済み成果物		Validated Deliverables の用語定義記述が無い
579	ち	知識ベース(教訓の)	教訓の知識ベース	
579	ち	調査 16, 557		調査(Surveys) は英語版も用語集に定義が無い
579	ち	調達コントロール・プロセス	調達コントロール	
579	ち	調達実行プロセス	調達実行	
579	ち	調達終結プロセス	調達終結	
579	ち	調達マネジメント計画プロセス	調達マネジメント計画	
580	て	定性的リスク分析プロセス	定性的リスク分析	
580	て	定量的リスク分析プロセス	定量的リスク分析	

580	て	手順		手順(Procedure) が日本語版用語集に無い
580	と	統合変更管理プロセス	統合変更管理	
580	と	同一場所に配置されたチーム	コロケーション	
581	ひ	品質の監査	品質監査	
582	ひ	品質保証プロセス	品質保証	
582	ひ	品質マネジメント計画プロセス	品質マネジメント計画	
582	ふ	ファスト・トラッキング技法	ファスト・トラッキング	
582	ふ	プロジェクト憲章作成プロセス	プロジェクト憲章作成	
583	ふ	プロジェクト作業の指揮・マネジメント・プロセス	プロジェクト作業の指揮・マネジメント	
583	ふ	プロジェクト人的資源マネジメント・プロセス	プロジェクト人的資源マネジメント	
583	ふ	プロジェクト・チーム・マネジメ(改行)ント・プロセス	プロジェクト・チーム・マネジメント・プロセス	不要な改行
583	ふ	プロジェクト・チーム育成プロセス	プロジェクト・チーム育成	
583	ふ	プロジェクト・チーム編成プロセス	プロジェクト・チーム編成	
583	ふ	プロジェクト・チーム・マネジメント・プロセス	プロジェクト・チーム・マネジメント	
584	ふ	プロジェクト・ベースの組織(PBO)	プロジェクト・ベースの組織(PBOs)	
584	ふ	プロジェクトマネジメント計画書作成プロセス	プロジェクトマネジメント計画書作成	
587	よ	要求事項収集プロセス	要求事項収集	
587	よ	予算設定プロセス	予算設定	
587	ら	プロジ(改行)ェクト・ライフサイクルを参照		不要な改行
587	り	リスク(二次)	二次リスク	
588	り	リスク・コントロール・プロセス	リスク・コントロール	
588	り	リスク志向度(選好)	リスク選好	
588	り	リスク対応計画プロセス	リスク対応計画	
588	り	リスク特定プロセス	リスク特定	
588	り	リスク・マネジメント計画プロセス	リスク・マネジメント計画	

プロジェクトマネジメント知識体系(PMBOK® ガイド) 第5版 正誤表 追加分

2015年5月7日 PMI日本支部 PMBOK®セミナー プログラム

区分	章節など	行	誤	正	補足説明
10	14.3	下から1行目	ポートフォリオレベル	ポートフォリオ・レベル	表記の統一(中黒)
16		16行目	プログラムマネジメントを使用することにより、組織は、コスト、スケジュール、労力、およびベネフィットを最適化および統合化するための、複数のプロジェクトを整合させる能力をもつ。	プログラムマネジメントにより、組織は、広範にわたるプロジェクトの成功の可能性を高めるための知識、プロセス、スキル、およびツールと技法を適用する能力を有する。	1つ前のパラグラフの最初の文章が、この文章に重複して記述されている
29	2.1.5	下から3行目	ソフトウェアツール	ソフトウェア・ツール	表記の統一(中黒)
53	図3-3	実行プロセス群から監視・コントロール・プロセス群の	作業パフォーマンス情報	作業パフォーマンス・データ	定義語の間違い
63		6行目	競合的する	競合する	表記
67	図4-3		合意	合意書	定義語の間違い
155	6.3.1.5	2行目	成果物の特性を記述した成果物スコープ記述書	プロダクトの特性を記述したプロダクト・スコープ記	定義語の間違い
195	7.1	2行目	このプロセスの利点は	このプロセスの主な利点は	表記
215	図7-11	7.4から4.5への項	プロジェクト資金要求事項	変更要求	表記
226	7.4.3.5	2行目	コスト見積り	アクティビティ・コスト見積り	定義語の間違い
242	8.1.3.3	16行目	品質コントロール・プロセスその属性をどのように測定するか	品質コントロール・プロセスがその属性をどのように測定するか	表記
242	8.1.3.5	タイトル	プロジェクトマネジメント計画書更新版	プロジェクト文書更新版	表記
267	図9-7	インプット 1	プロジェクトマネジメント計画書	人的資源マネジメント計画書	表記
346	10.1.2.5	下から2行目	その会議用に文書化された議事録	その会議用に文書化された要約	表記
355	11.5.2.3	1行目	好機を受容するということは、積極的にはその利益を追求しないが、好機を実現したときにその利益を享受しようというものである。	対応策の中には、特定の事象が発生した場合に限り使用するように決められたものがある。	1つ前のパラグラフの文章が、この文章に重複して記述されている
385	12.3.3.3	5行目	・スケジュール・ベースライン コストやスケジュールに影響を与えるなど、調達マネジメントに影響を与える承認済み変更要求をすべて反映するために、調達マネジメント計画書を更新する。	スケジュール・ベースライン 全体的なプロジェクト・パフォーマンスに影響を与える遅延が出た場合、現時点の予測を反映したスケジュール・ベースラインの更新が必要である。	1つ前のパラグラフの文章が、この文章に重複して記述されている